

<講座報告>

F 通常の学級における指導～多層指導モデルMIMの実践・演習～

西東京市立住吉小学校 栗原光世先生



栗原光世先生には、昨年度お招きした海津先生の冬期講習講座を受け、大支援研でのMIM講座第2弾として、MIMの実践を中心にご講演いただきました。心待ちにされていた先生達で講演会場は熱気と笑顔に溢れていました。

まず、MIMの概要を説明いただく中で、大

切なことを2つ教えていただきました。

- ①多層指導モデルMIM (Multilayer Instruction Model) は、通常学級において、学力、家庭環境、興味関心等みんな一人ひとりが違う環境での指導を前提としているということ。
- ②一般校で、4月スタート時にあれっとな気になる子どもがいながらも、まだ4月だから・・・、と知っているうちに5月が過ぎ、1学期が終わってしまうことありませんかとの問いかけがありました。MIMでは、一斉指導の中、子どものもつ支援のニーズを把握し、速やかに、つまりく前に、又は深刻化する前に指導支援を行うことを大切にしていると、説明くださいました。

次に、指導の方法として、

- ①1stステージの「全員に対して」効果的な指導を行い、2ndステージでは「それでも十分でない子ども」に、さらに、「まだ十分でない子ども」には3rdステージの指導をと、習熟度だけでなく時系列的に指導を行う。
- ②注意点として、基本となる一番分かりやすい指導方法を全体に行い、その都度変えないことが重要であるとのこと。3rdステージの子どもは、その都度違うことを3回聞かなければならなくなり、かえって混乱をすることに繋がるとのポイントも説明くださいました。

そして、講座の多くの時間を、受講した先生たちにMIMの実際の指導の実演をしてくださいました。受講した先生たちが、支援学級や、支援学校、通常の学級で、視覚化や動作化を通じた音節構造の理解を子どもに深める実際の方法を、楽しく、分かりやすく、そしてすぐに自分たちの児童生徒に伝えたい、もっと勉強したいと背中を押してくださる、熱意、情熱溢れる、貴重な時間となりました。